（２６）　精神科研修の有用度に影響する因子（自由記述）

精神科研修の有用度を高く評価するもののうち、最も多い意見は「偏見の除去」と「後期研修をふくむ専門科医療でも精神障害、精神症状に出会うから」という意見であった。不穏、せん妄、不安、不眠を主とするよく出会う病態への具体的対処を学びやすくなったという意見が多かった。うつの診断は出来ても自ら治療できるようにはならないという意見が複数あった。

有用度を制限する因子として最も多い意見は「研修期間の短さ」であった。

（２７）　精神科研修と他科研修との差異（自由記述）

「差異はない」という意見が多かった。「時間の流れが緩やか」という記載が多かった。「問診を中心としたコミュニケーションの重要性」や「生活史の重要性」など精神科臨床の専門性に着目した回答が多かった。「専門性が高すぎて見学に終わる場合が多かった」との声も複数あった。

（２８）　精神科研修の満足度

100 点満点で評価した精神科研修の満足度は平均 68.4、標準偏差 19.8、範囲 0-100、回答数 769 であった。

（２９）　精神科研修の満足度に影響する因子（自由記述）

精神科研修の満足度を高く評価するもののうち、最も多い意見は、「指導医がよい」というものであった。急性期から慢性期のリハビリテーションまで広く経験できた者も満足度が高かった。

満足度を制限する因子としては、再度「研修期間の短さ」が上げられたほか、指導の不足や経験の量やバラエティの不足が上げられた。

４　まとめ

１）基本研修アンケート

817 の研修指定病院宛に 9495 通の回答用ハガキを発送し、399 通が回収された。無効 3 通を除いた回答者平成 16 年度初期研修医 396 名を対象とした。

- 回答者集団は厚生労働省発表の平成 16 年度初期研修医 7372 名の 5.4%にあたり、回答者の初期研修先の大学所属率（44%）と後期研修専攻科の分布は厚生労働省発表の平成 17 年度「臨床研修に関する調査」による初期研修先の大学所属率（46.5%）、希望する診療科の分布とほぼ一致する。したがって、回答者は平成 16 年度初期研修医を代表するものと考えられる。
- 「もっともよく学べた」と「比較的よく学べた」と答えたものの割合の和（選択率）はチーム医療で外科（回答者の 68%）が高かったのを除き、内科が最も高かった（患者−医師関係 79%、問題対処能力 72%、安全管理 51%、症例提示 84%、医療の社会性 47%、医療面接 74%）。こ